

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」を常に心におき、事業所、各職員共にそれぞれ寄り添いながら、日々を過ごさせて頂いています。	法人の理念やコンセプトについては玄関、各ユニットに掲示し来訪者にもわかり易くなっている。ホームの全体会議や申し送り時に読み合わせを行い実践に繋げている。また、特に接遇に力を入れ取り組み、「声がけ」「挨拶」は支援の基本として意識をし業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際には、地域ボランティアの皆様のご協力を頂き、大変楽しい時間を過ごさせて頂いておりましたが、現在は、コロナの為に中々交流が出来ていない現状です。	区費を納め、地域の一員として活動している。新型コロナ禍で思うような活動ができていないが、新年度からは少しずつ地域との関りができればと待ち望んでいる。専門学校生の職場体験の受け入れは継続しており、1年生は10日間、2年生は1ヶ月以上実習し利用者との時間を過ごしている。地域の行事への参加やボランティアの来訪の再開も待望している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、法人、地域で行われる認知症に関する講習会の案内、パンフの配布等で参加への紹介を行っている。現在、会議は書類の郵送を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回施設の様子が分かる新聞他の郵送にて情報を共有させて頂いております。新聞、写真、資料を用いて、日々の生活を紹介し、意見交換をしている。	2ヶ月に1回偶数月に、家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で開催していたが新型コロナ禍で書面開催となり、資料に「さとび便り」「さとび近況報告」を入れホームの様子を伝え、意見をいただきサービスの向上に活かしている。運営推進会議資料は他に、市の長寿課へも提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご担当者様とは適時連絡をとりながら、取り組みの状況報告をしている。介護相談員の訪設の際は、意見交換をしています。	新型コロナ禍の状況で市長寿課とはメールで報告することが多くなっているが出向いてもいる。地域包括支援センターとは利用状況等の連携を取っており待機者は少なくなっているという。介護相談員の来訪は中止されているが3月には介護相談の日として面談員が見え利用者とは話を予定である。介護認定更新調査は居室にて短時間で終わり職員が同席し居室以外で家族と話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に高い意識を持ちケアにあたっています。マニュアルを常備し、閲覧できる体制を整え、職員は何時でも確認ができます。安全確保の為玄関は施錠していますが、契約時の説明、面会時にてご家族様からの了承を頂いております。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠されている。離脱傾向のある方には気持ちを別に繋げたり、「どうされましたか」と声がけし散歩をしたり、中庭へ出たりして気分転換を図っている。ホーム内に委員会があり、半年に一度全体会議で拘束のないケアについて話している。資料の読み合わせや本部危機管理室から送られたファイルの読み合わせをし、必要に応じ事例をあげ研修会を行い日々拘束のないケアに取り組んでいる。現在、センサーマットを使用している方が2名おり家族の了解をいただいているが、解除に向けて定期的に検討をしている。	

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛け、対応、あらゆる場面にて高い意識を持ちケアにあたっています。施設内研修を行い、防止に努めています。また、入浴時等各職員は必ず身体状況を確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」を利用されているご利用者がいる為、研修を行い理解を深めました。法人研修にも参加し情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまで、時間をかけご納得されてからの契約をしている。各書類の説明には時間をかけ、不安、疑問を解消しながら説明させて頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を用意し、ご意見を頂ける状況を確認しています。家族会開催時には、アンケートのご協力を頂いています。	殆どの利用者が意見や要望を伝えることができる。「どうされたいですか」と声をかけ繰り返しお聞きすると心を開いてくれるという。家族との面会はフィルム越しに事務所と玄関で行っている。他にウェブ面会でノートパソコンを居室に持ち込み利用者の様子もお知らせし、電話連絡も密にしている。2ヶ月ごとの「さとし便り」を家族は楽しみにしており、ファイルに綴じ込み子どもさんに送られている。新型コロナ禍で家族会は中止になっているが、再開が待たれるところとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、引継ぎ、全体会議等職員が意見を述べやすい状況と機会を設けている。また、考え、意見を述べやすい環境作り配慮をし、実際に職員の考えを尊重し提案を受け入れている。	全職員が出席し、月1回、全体会議を行っている。法人からの連絡事項、行事予定、各種研修会行われ、棟毎のカンファレンスも行われ、現在の様子を話し合いながら情報共有を図りケアの向上に努めている。期初に一人ひとりの目標管理シートを作成し半年ごとに振り返り、管理者と面談しスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に集中できるような休息時間の確保をしている。各職員のスキルを目指し、研修への参加、施設内研修においては講師を任せる等本人のやる気を尊重している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は適時行っており、お互いにスキルアップを目指している。各職員の力量は、管理者、各棟のリーダーからの考えも聞きながら、職員に合った仕事の割り振りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修への参加は、個々の視野を広げるために役立つため積極的に参加を促し、適時勉強会を行っている。現在相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様からの訴え、要望について傾聴させて頂く姿勢は崩さず、共感させて頂く。対応について気になる点については、気付いた時点で職員と話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至るまでに話し合いを繰り返し、ご家族が望む生活をよく理解できる努力をしている。ご家族の訴え、意見を傾聴させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、どのような状況かお一人お一人全く違うので、時間をかけお話を十分にお聞きしながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念「共に歩む」を常に念頭におきながら、職員視点の介護にならないよう、日々指導をしている。人生の大先輩でもあるご利用者様の尊厳を何よりも重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大事にご家族をどのような想いで私達職員に託しているのか、各職員がそのお気持ちを察しながら丁寧にご家族様との関りを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされてきた地域での馴染みの生活に少しでも近づけるよう、知人、友人、ご家族様との良い関係が続くよう、配慮、支援させて頂いています。	現在面会は家族のみ(兄弟・子・孫)で、ワクチン接種3回以上と制約を設けている。そうした中、電話で話をしたり、手紙を出す利用者がいる。2ヶ月毎の理美容は馴染みの美容師が継続して来訪しており、全員髪を整え会話も弾んでいるという。新型コロナ禍で制約がある中、定期受診の時は外出でき、受診の後、家に立ち寄って来られた方もいたという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士良い関係が築けるよう、必要に応じてテーブル席の配置替え等、細かい配慮もしながら、常に和やかに過ごして頂ける努力をしている。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽にお声がけや来設して頂けるような関係性を築けるよう努力をし、大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様それぞれの時代背景や、願い、想いが違う事を各職員が理解する努力をしている。想いを伝える事が難しいご利用者に対しては、生活歴を把握し、ご家族様にも伺いながら把握に努めている。	現在思いや意向を殆どの利用者が表出できるが、難しい方にはじっくり話を聞き、家族からの情報も得て今までの生活歴を把握し希望に沿えるよう取り組んでいる。飲み物は種類を多く提示しその方の好きな物を選んでいただきリクエストにも応じている。1年半前からタブレット端末にケア記録を入力し、コメントも入れ、利用状況を全員が瞬時に把握できるようにしている。受診時はケース記録の中の必要なところをプリントアウトし家族に持参していただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは、望む生活にもつながる為、情報収集、意見交換をし各職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その身体状況、心身状況も変化がある為、その変化に気付けるよう、普段の生活を把握する努力を日々行っている。変化が見られる時には、即時対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む生活を実現していく為に、関係者と話し合いながら方向性を検討している。気持ちに添った計画を作成している。	シフト制で全職員が利用者一人ひとりの状況を把握し全体会議でモニタリングを行い、合わせて家族の意向を反映し、管理者と計画作成担当者がプランを作成し日々の支援の中で実践している。見直しは半年毎に行い、状況に変化が見られた時には随時見直し変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良いケアを目指し、ご利用者様の現状を文書化し、訪問看護、訪問歯科、訪問ドクターと情報を共有し、日々の変化に対応し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応を取る為に、状況の変化に配慮している。また、ご家族様と細かい連絡をとるように努力をしている。		

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括、民生委員、地域住民様からの情報交換を行い、介護相談会においてはご利用者様からの会話の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、協力医療機関の説明を、懇切丁寧に行い、希望に添った受診支援を行っている。かかりつけ医との連携にも力を入れている。	利用前からのかかりつけ医を継続している方が若干名おり家族が受診に付き添っている。その他の多くの方には協力医の月1回の往診があり、また、月1回の受診時には職員が同行し対応している。訪問看護ステーションから週1回水曜日に訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理と合わせ医師との連携も図り万全な医療体制を整えている。歯科については訪問歯科の来訪が週1回あり、口腔ケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ご利用者様の現状を文書化し、週1回の訪問看護の際には活用をしている。状況の変化はその都度確認し記録に残している。必要時には、医師にも相談し24時間対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院訪問をしご本人様ご家族様とも連絡をとりながら意向を確認します。法人系列の医療機関、他医療機関の関係者とは密に連絡を取りながら、退院時カンファレンスを行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての意向の確認を致します。必要時期、早い段階から意思確認を行い、医療チームが組まれているので、納得されるまで丁寧に説明し、支援に取り組んでいます。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し、意向を確認の上同意をいただいている。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いの場を持ち、医師からの説明に合わせ改めて看取りの同意書を頂き、訪問看護師とも個人で医療契約を結び、看取り支援に取り組んでいる。この2年で3名の方の看取りを行ったという。新型コロナ禍での看取りケアになったが、家族は毎日居室で最期の時間を送ることができたという。職員は家族とのコミュニケーションを密にとり「さとびを選んで良かった」と家族から感謝の言葉を頂いている。ベテランの職員も多く、振り返りをし次の看取り介護に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練においてAED使用した講習、実践はもとより、委員会による自設内研修を行います。緊急時の連絡体制も整備され、有事の際には個人判断せず必ず助けを呼ぶことを徹底しています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練において本番さながらの避難訓練をします。法人全体で取り組み、職員個々が自覚をしています。また、塩尻市より最優秀事業所として、表彰されました。	年2回防災訓練を行っている。消防署員が参加し地震想定で行い、利用者はホールから廊下に避難している。消火訓練、通報訓練、AEDの訓練などを行い、毎月ホーム内で自主的に訓練を行い防災意識を高めている。6月には防災機器業者と法人の防災担当者の立会いで食堂にて消火器を使い訓練を行っている。市消防局より最優秀事業所として表彰を受けており、職員は自覚を持ち防災に取り組んでいる。備蓄品として水、ご飯、缶詰等、1週間分が倉庫に保管されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の大先輩でもあるご利用者様に対し、敬う心を忘れません。全職員声掛け、挨拶は特に気を付けて取り組んでいます。	利用者一人ひとりの尊厳を守り人生の先輩に対する敬意を常に保ち、丁寧な言葉遣いに心がけている。声かけは苗字に「さん」付けに行っている。法人でも言葉遣いに力を入れており、職員同士注意をし合い、年1回自己チェック表を用いて振り返りをし、テーマを決めてホーム内研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々、ご自分の想いや、願いを表現できない方も増えています。情報シート等のツールも使用したり、表情や生活歴等からも探っていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを最優先にし、気持ちを伺いながら、職員が見守ります。体操や、レク等団体で行う時には、無理強いはせずにお誘いします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ただあるものを着るのではなく、自分で選べる方には選んで頂き、そうでない方には、職員がコーディネートをします。身なりを整え鏡を見て頂くよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜が採れる時には一緒に収穫し、食卓にだします。ジャガイモや玉ねぎの皮を剥く等、出来る事を楽しみながらやって頂きます。また、お片付けテーブルを拭く等も楽しんで頂いています。	食事時間はお揃いのエプロン着用で、一部介助の方が若干名おり、他の大半の方は自力で食べることができ、全員、箸・スプーンで摂取している。刻み、ミキサー食の方もいる。エプロン着用で食事の時間を認識するようにしている。食材は配送業者より納品され献立は職員が冷蔵庫の中の食材を見て調理している。利用者のお手伝いはできる方に参加していただいている。行事食や誕生日メニューについては利用者に食べたい物を聞き、正月、雑祭り、お花見、端午の節句、七夕、クリスマス等、月1回は季節を感じる料理を味わうことができる。家庭菜園から収穫した野菜が食事メニューに活用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前午後のお茶、食事での水分量を一日毎で把握。食形態は個別対応しており、摂取、飲水しやすい状況での提供。必要時、トロミやゼリー等で提供。医師、看護師、歯科ドクターからの連携あり。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応しており、毎食後口腔ケアを必ず行っています。訪問歯科ドクターからは、毎週各利用者様の状況の報告を受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にかなりの違いがあります。尿意、便意ある方はその状況での対応や、排尿パターンを調べてその方のリズムにあった声掛け、全介助の方は定時交換の他に、表情や様子から適時行っています。	全利用者が介助を必要とする状況となっている。一人ひとりの状態に合わせ、リハビリパンツ、パット、オムツなどを使用している。排泄パターンに合わせ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。水分は1日1,200ccを目標に摂取を促している。家族の希望で乳酸菌飲料を毎日1本摂取している方もいる。トイレはユニット毎に3ヶ所ありわかり易く、トイレ内には飾り付けもされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	違いが大きくありますが、体操をしたり一緒に歩いたり、楽しく体を動かせる努力をしています。排便コントロールは、医師確認の下、体に合ったコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回以上を予定していますが、必ずバイタルチェックを行い、その日の体調にも合わせます。気分の乗らない日には、無理強いをせず、入浴日をずらす等対応しています。	全利用者が介助を必要とする状況となっている。一部介助の方が三分の二強、全介助の方が三分の一弱で、基本的に週2回、毎週火曜日と金曜日の午前中に入浴している。入浴拒否の方には無理強いをせず、職員を変えたり曜日を変え、表情を見ながら行っている。入ってしまえば「気持ちがいいね」と言われるという。入浴剤は利用者を選んでいただき「さとし温泉」として楽しんでいる。別にシャワー浴や足浴も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に自由に休んで頂いています。居室で、ホールで、テーブルと様々です。夜は皆様居室にて休まれますが、夜間ホールに出て来られたご利用者様には、お気持ちを伺います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は徹底しています。また、誤薬を防止する為、内服までにダブルチェックを必ず行います。処方箋ファイルにて、目的、副作用等随時確認をし、変化がある時、医師、看護師に連絡します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、生活の中でやって来られた事を役割として分担してもらいます。職員も感謝の言葉を忘れません。レク、行事、クッキー、たこ焼き、餃子作り等、楽しめる事はたくさんあり、気分転換に役立っています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ぶどう狩り、紅葉狩り、お散歩、随所でお出かけをしておりますが、現在は外出支援が中々出来ておりません。歩行にて、隣の日本庭園を見に行ったり、中庭にて日光浴、お茶会を開いています。	外出時、自力歩行の方は若干名で、大半の方は車椅子を使用している。新型コロナ禍で外出が制限されているが、散歩と中庭での日光浴やお茶会が行われ気分転換をしている。新型コロナ禍ではあるが年間活動計画を基に、また、曜日や時間帯、場所など検討しながら三密を避け、花見、外食会、ぶどう狩り、紅葉狩りなどを計画し、可能な限り外出に取り組んでいる。ホーム内の行事、敬老会、運動会、夏祭り、また日常のレクリエーション等にも力を入れ、利用者と職員が共に楽しい時間を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て、施設で管理していますが、ご利用者様によっては手元にて最小限の金額を管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の意向も確認し、ご本人様の要望に添いながら、対応しています。電話を掛けて頂いたり、こちらから家族に電話をかけたり、手紙のやり取りも自由にして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、花や、タペストリー等の飾り付けをし、温度・湿度調整は欠かさず行い、過ごしやすい環境に整えています。新聞、雑誌も揃え思い思いに過ごせる空間作りをしています。施設内の様子は、発行新聞や、日々のお写真を郵送しております。	天井が高く日当たりの良い広々としたホールには段飾りのお雛様が飾り付けられ、鉢植の花や観葉植物も置かれ、季節を感じることができる。壁にはA4サイズの利用者の日々の生活を写した沢山の写真が飾られている。食事、書初め、豆まき、カルタ取りなど、笑顔で写る利用者の表情は明るく、楽しく過ごしている様子を窺うことができる。降った雪で雪だるまを作りホールに持ち込み、利用者が一堂に会して撮った写真には素敵な笑顔が見られた。中庭は広く椅子やテーブルが置かれ、天気の良い日にはお茶を飲んだり日光浴をしている。合わせて家庭菜園では野菜が育てられ職員と共に収穫を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に応じて、椅子の配置替えや、食事席にも配慮しています。気の合った方同士過ごせるような、テーブルやソファへの声掛けもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年馴染んできた家財や配置を心がけています。ですが、状況によりそれが危険リスクの高い要因になる事もあるので、その時には、ご本人、家族様と話しながら対応しています。	居室には洗面台、押入れ、エアコンが備え付けられており、衣装ケースやハンガーラックが持ち込まれており、家族写真や誕生日カードが飾られており、窓からは外の景色を眺めることができる。利用者は整理整頓され、掃除の行き届いた居室で思い思いの暮らしをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誤食、転倒あらゆる危険リスクを回避する為、内部の清掃を強化し、危険物の排除に気を配ります。自立歩行、補助用具使用の移動には、足元の確保は必至です。		